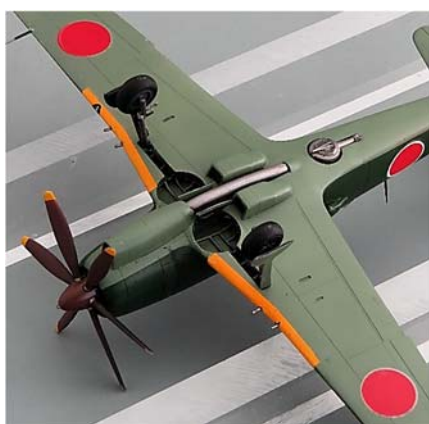


ワケ カタチには理由がある(G4)

Shape follows Function & Taste

～立川飛行機 Ki-94-II 陸軍試作戦闘機



↓モックアップで終わったキ-94-Iと

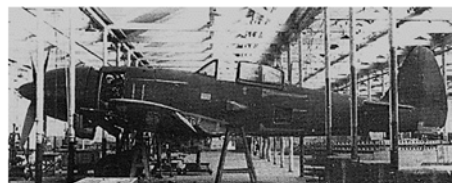


本機は、立川飛行機が Ki-94-I の試作中止の後、仕切り直しをして制作された、日本陸軍の試作戦闘機です。陸軍は中島飛行機が試作していた高高度戦闘

機 Ki-87 計画を引き継ぐことを命じたもので、排気タービンの搭載と与圧コクピット装備を技術的課題としていました。特に、排気タービンは、単純に既存エンジンに追加すればよいというものではなく、当時日本の各航空機メーカーが悪戦苦闘していました。成功のポイントは、排気タービンの位置をエンジンから離し、その間に中間冷却器を配置することで、十分に冷却した圧縮空気をエンジンに供給することだったように思いますが、この構造を初めて実現したのがこの Ki-94-II でした。終戦時には、東京・葛飾区金町駅前の疎開先の工場で略完成していましたが、実際に飛行することなく、米国に接收、破棄されてしまいました。米国の P-38 や P-47 もそうですが、排気タービンを搭載した機体は装置の配置から大型機になる傾向があります。この機体も同様で、主翼のスパンは 14m もありました(当時の陸軍主力戦闘機「疾風」のそれは 11.24m)。

【模型について】

出典：ウィキペディア→



RS モデルの 1/72 インジェクションキットです。カチッとした

出来ですが、多少大味なキットでした。4 枚プロペラと 6 枚プロペラが選択式だったので、ネオジム磁石で選択式としています。なお、はじめキャノピーが大きすぎる？と感じましたが、実機写真を見るとキャノピーが大きく、デッサン狂いではありませんでした。(中川裕幸 2023 年 12 月)